

# 水曜通信38

東北学院宗教センター編

2024年  
6月

## 第73回 水曜公開礼拝

2024年6月19日(水) 18:30-19:00

<礼拝次第>

前奏：J.バーンビー作曲

「星は出でてわれを招く」

讃美歌：405番 「かみともにいまして」

聖書：ローマの信徒への手紙 14章18節

コリントの信徒への手紙一 15章32節

讃美歌：320番 「主よみもとに」1, 2, 5節

説教：「受肉と超越：鐸木道剛先生を偲ぶ」

頌栄：541番 「ちちみこみたまの」

後奏：F. ペーターズ「この世にあかしをたて」



説教  
院長・学長  
宗教センター所長  
大西 晴樹



奏楽・第2部演奏  
教養教育センター教授  
大学オルガニスト  
今井 奈緒子

後奏の後、鐸木道剛先生（2月15日召天）の追悼音楽会を開催いたします。

次回第74回水曜公開礼拝は7月17日です。

## 第72回 水曜公開礼拝報告（説教：原田 浩司、奏楽：小野 なおみ）

2024年5月15日（水） 18：30－19：00

讚美歌：39番 「ひくれてよものはらく」  
聖書：ヨブ記 30：24－31  
讚美歌：399番 「なやむものよ、とく立ちて」  
説教：「災害は突然に、救済はどこに」  
頌栄：541番 「ちちみこみたまの」



### 【説教要旨】

2024年は能登半島地震に始まり、その後も各地で大型地震が起き、改めて自然災害に危機感を持たざるを得ない。故三浦綾子の作品に『泥流地帯』がある。これは1926年5月の北海道十勝岳の大噴火により山の下の集落が土石流に飲み込まれ、144人が犠牲となった自然災害をテーマとした震災文学である。続編では主人公の一家がヨブ記について語り合うなど、よりいっそうキリスト教の色彩が立ち現れる。ヨブは「私は幸いを望んだのに、災いがやってきた。…私の腹は煮えたぎって、鎮まらないのに、私は苦しみの日々に向かい合わなければならぬ」と、魂の苦難を吐露する。被災者たちを代弁する言葉だ。

ヨブ記は十字架の苦難を受けるイエス・キリストの伏線と考えられる。「義人」のヨブが苦しみを受ける不条理の物語。しかし、その物語は「罪のない義なるお方、イエス・キリストが、罪とされ、裏切られ、痛み、痛みを受ける」という不条理に繋がる。しかし、キリストの受難・受苦は我々を隷属させる罪からの救済へと繋がる。人の罪を贖い、死に勝利するための受難であり、その苦難には意味があった。苦難をただの苦難のままにせぬ神が、被災地の人々を苦難の中から立ち上げさせてくださるよう、祈るばかりである。（宗教センター主任 原田 浩司）

前奏：H. バリー作曲 「ひくれてよものはらく」による前奏曲  
後奏：D. ウッド作曲 「なやむものよ、とく立ちて」

「ひくれてよものはらく」は世界各地で愛唱される夕べの讚美歌です。作詞者が死を目前に、自らの人生と日暮れの情景を重ねあわせた詩と、そこに優しく寄り添うような旋律が人々の心を震わせます。

「なやむものよ、とく立ちて」は日本でも昭和6年版の讚美歌に採用され広く歌われてきました。これら2つのイギリスの讚美歌を元にした本日のオルガン作品は、2曲とも穏やかな音色によって奏でられる近代的な和声の進行が美しい作品です。（礼拝オルガニスト 小野 なおみ）

礼拝とその後の19時00分から30分までの音楽による賛美に58名の方が参加されました。



## 礼拝後、音楽による賛美（オルガン演奏：小野なおみ、賛美：中川郁太郎、平琉之介）

1. F. トウンダー 作曲 《来ませ、聖霊、主なる神》
  2. C. フランク 作曲 《来たれ創り主なる聖霊》\*
  3. M. デュリュブレ作曲 《「来たれ創り主なる聖霊」によるコラール変奏曲》\*
- \*平 琉之介（テノール：本学宗教部聖歌隊4年生）・中川 郁太郎（バス・バリトン：本学特任准教授）

教会暦において今年の5月19日は「聖霊降臨日（ペンテコステ）」という祝日でした。キリストの霊（聖霊）が地上に注がれ、教会が建てられたという出来事を覚える日です。礼拝後の《音楽による賛美》ではこの日に因む3作品を演奏いたしました。

1曲目を作曲したトウンダーは、リュベックの聖マリア教会で「夕べの音楽」というコンサートシリーズを創設し、ここからブクステフデ、バッハへと音楽が受け継がれました。この作品は北ドイツバロック様式の典型的なコラール・ファンタジーで、複数の鍵盤を用いたエコーなど様々な技巧がみられます。

2曲目と3曲目に用いられている「Veni Creator」はグレゴリオ聖歌の中でも最も有名な聖歌の1つであり、おそらく9世紀にフランス人の司教によって作られたとされています。2曲目の作曲者フランクは、パリ音楽院オルガン科の教授としてフランス近現代のオルガン界が発展する礎を築きました。3曲目の作曲者デュリュブレはオルガン作品を6曲しか残しませんでした。いずれも色彩豊かな作品で多くのオルガニストのレパートリーとなっております。（小野 なおみ）



## 旧約聖書のヘブライ語（1） 「初めに神は天と地を創造された」（創世記1：1）

旧約聖書で神様が世界を創造するときには、ヘブライ語で「バーラー」という特別な言葉が使われます。たとえば、創世記の1章では「天と地」（1節）、海の水や天に棲むもの（21節）を造るときには「バーラー」したと語られます。一方で、大空（7節）や太陽や月（16節）、地上の生き物（25節）を作るときには「アーサー」したとあり、どうも使い分けがあるようです。では、人間は「バーラー」されたのでしょうか、「アーサー」されたのでしょうか。

正解は「バーラー」です。しかも人間の創造の際には「バーラー」という語が三度も重ねて使われます（27節）。ちなみに、創造物語にはよく似た響きの「バーラフ」という言葉も出てきますが、こちらは「祝福する」という意味です。神様に創造されたものは祝福されて生まれてきた、という発想がこの語呂合わせの背景にあるようです。（大学宗教主任 田島 卓）

ברא バーラー（創造する）

ברך バーラフ（祝福する）

עשה アーサー（作る）

## — 建築が語る東北学院の歴史（29） —

高校の増設計画を背景として浮上してきた工学部の旧地は、先んじて起こった旧地主の返還請求もあり、すぐには取得の目途が立ちませんでした。一方、高校の増設は急を要する課題であり、東北財務局との折衝の末、榴ヶ岡に在った旧陸軍第四連隊跡地の借用にこぎつけました。昭和33年（1958）のことでした。翌年4月に開設された分校は、地名にちなんで榴ヶ岡校舎と呼ばれました。のちに独立して泉校地へ移転する榴ヶ岡高等学校の誕生です。

多賀城に工学部を設置する構想が具体的に「いつ」生まれたのかは判然としませんが、当初難航していた用地の取得は「理工系大学」の設置構想によって急展開したことが後の記録に記されています。多賀城における工業都市計画との整合性もあったことでしょう。とは言えその道程は決して平坦ではなく、とりわけキリスト教主義学校が工学部を設置することには根強い反対があったと伝わります。“基督教主義学校は唯心的方面的教育が主体で、唯物的教育などはもっての外だ。絶対にやってはいかん”といった声も寄せられたようです。しかし時の小田忠夫学長は志を貫徹します。その背景には、基督教系の中学校・高等学校に理科の先生が不足している状況も背景としてあったようです。こうして東北学院大学は、東北唯一の私立総合大学へと歩を進めます。（工学部 崎山 俊雄）

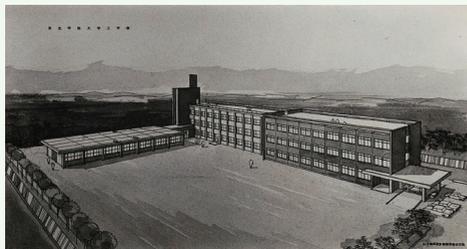


図1 多賀城キャンパス新築校舎の透視図（旧3号館：国立公文書館蔵）



図2 工事中の多賀城キャンパス（同左）

## クリスマス以外のキリスト教三大祝祭日 ② ペンテコステ（聖霊降臨祭：5月下旬～6月上旬に実施）

「ペンテコステ」というカタカナは、新約聖書が書かれたギリシア語の発音を表しており、本来は「50番目」といった数唱の言葉でした。ところが、イエス・キリストの復活から数えて「50日目」、神に祈るために集まっていた弟子たちに「炎のような舌」という不思議な形状で聖霊が降臨しました。「舌」だけに、世界の各国で語られている言葉で弟子たちがイエス・キリストの教えを語り出し、そしてパウロが語るキリストの十字架と復活の奇跡の教えを聞いて、多くの人が洗礼を受けてクリスチャンになった経緯が使徒言行録2章に記されています。この場面こそ、地上の最初の「エクレシア（教会）」の誕生を描写した箇所とされ、ペンテコステは「聖霊の降臨」による「教会の誕生」を記念する祝祭日となりました。

この最初の教会に「建物」はありませんでした。聖霊が天からくだり、主イエスの教えを語る「弟子」と、主イエスの救済の御業を語り伝える「言葉」、それを聞く聴衆しかありませんでした。しかし、それこそが実は＜教会の本質＞です。「教会」と訳されるギリシア語で「エクレシア」とは、直接的な意味は「（主から）召集された者たち」です。神の言葉を語る者と聞く者たちがいて、そして受洗者たちがいるのが教会です。16世紀の宗教改革者たちはそれぞれの「信仰告白」の中で、これこそが偽りの教会から真の教会を見分ける「第一のしるし」と宣言しました。したがって、プロテスタントでは特に、ペンテコステは教会とは何かを吟味する大切な祝祭日なのです。

（宗教センター主任 原田 浩司）

### //// //// 鐸木 道剛先生 追悼音楽会のご案内 //// ////



水曜公開礼拝の始まりに大きく貢献された鐸木道剛先生を追悼して音楽会を開催いたします。

【日 時】2024年6月19日（水）

第1部《礼 拝》18：30～19：00

第2部《追悼音楽会》19：00～20：00

\*水曜公開礼拝の第2部で追悼音楽会を行います。

【場 所】土樋キャンパス ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

【申し込み】不要

【その他】駐車場はございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



宗教センターHP

東北学院宗教センター編「水曜通信」第38号

2024年6月5日発行

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司

東北学院宗教センター TEL：022-354-8310

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp